



▼大阪交響楽団の演奏に合わせて、校歌を元気に歌う甲佐小児童たち



演奏会では、オーケストラを構成する楽器の種類や音色を紹介するオリジナル曲や、チャイコフスキー作曲のバレエ音楽「くるみ割り人形」などが演奏され、鑑賞した児童たちは生で聴く素晴らしい演奏を堪能し、盛んな拍手を送りました。また、5・6年生は、エルガー作曲の行進曲「威風堂々」を縦笛でオーケストラと共演。最後に、アンコールでは、同小校歌をオーケストラにアレンジした演奏に合わせて、児童たちは校歌を元気に斉唱しました。

オーケストラを楽しもう

甲佐小で大阪交響楽団による演奏会

10月21日（木）甲佐小学校体育館で、大阪交響楽団演奏会が開催されました。同演奏会は、文化庁による「子どものための優れた舞台芸術体験事業」の一環として実施。甲佐小学校（吉見和洋校長207人）の校舎・体育館・外溝などの落成記念行事として、同小と町教育委員会が主催。同小児童や保護者、地域住民など約350人が、大阪交響楽団（海老原光指揮）による巡回公演でオーケストラの演奏を鑑賞しました。

全国スポーツ大会に出場

宮崎真治さん（津志田区・あゆの里学園）

10月24日（日）・25日（月）千葉県で第10回「全国障害者スポーツ大会」が開催され、宮崎真治さん（津志田区・あゆの里学園）が県代表としてフットベースボール競技に出場しました。

宮崎さんは、県内の選考会を経て同大会に出場。守備力を評価されて外野手として活躍し、トーナメント戦を勝ち上がって、チームの準優勝（6チーム参加）に貢献しました。

大会を振り返って、宮崎さんは「力を出し切れなかったのが、次に出場するチャンスがあれば、もっとがんばりたい」と話しました。



▲全国大会に県代表として出場した宮崎さん



10月に販売開始の商品券は11月中に完売

プレミアム付商品券が完売

甲佐町商工会が販売

10月29日（木）甲佐町商工会（中村幸男会長）が、「甲佐町プレミアム付商品券」を販売しました。同商品券は、本町での町民の消費需要を喚起し、地産地消の推進と商業の活性化を図るために、同商工会が昨年度に引き続き発行。商品券の取扱登録をしている町内の店舗や事業所などで利用できます。1セットは、500円券の12枚綴り6,000円分を5,000円で販売。1,500セット限定で、町民1人（小学生以上）3セットまで購入可能。売れ行きが好調で、11月17日（水）に完売しました。同商品券の有効期限は、平成23年1月31日（月）です。期限を過ぎた商品券は使用できませんので、ご注意ください。

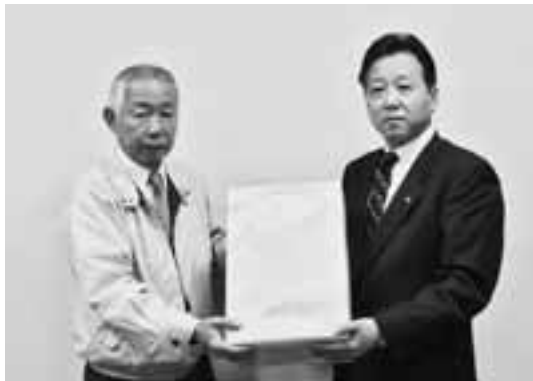
うがい茶で風邪を予防

上益城農協から小学校にうがい茶を贈呈

11月26日（金）、上益城農業協同組合（梅田穰組合長）から町内4小学校にうがい用の緑茶55^キ（約50日分）が贈呈されました。

上益城農協では、地域貢献活動の一環として、児童の健康維持のために贈呈。緑茶によるうがいは、緑茶に含まれるカテキンが風邪などの予防効果があり、また、フッ素も含まれているため、虫歯予防にも最適とされています。

清村敬人副組合長は、「うがい茶で風邪を予防していただき、子どもたちには毎日元気に登校してほしい」とあいさつしました。



▲奥名町長にうがい茶を贈呈する清村副組合長



▲落成式でダンスを披露する地元の子どもたち

コミュニティ広場が完成

和田内区

11月7日（日）和田内区（福永和彦区長66世帯）にコミュニティ広場が完成し、落成式が開催されました。式典には、地域住民など約60人が参加。福永区長が「この広場を地域の憩いの場として活用してください」とあいさつしました。

同広場は、グラウンドゴルフなどの運動場などとして利用するために約600平方メートルを造営して造成。ナイター設備としてグラウンド照明も設置しました。

整備は、コミュニティの健全な発展を図ることを目的としたコミュニティ助成事業により実施。整備の経費は、（財）自治総合センターが実施している宝くじの普及広報事業「一般コミュニティ助成事業」で賄われました。

昔の農具での農作業を体験

乙女小まつやま塾



▲「千歯（せんば）こき」（写真左）と、「稲こぎ機」と呼ばれた「足踏み式脱穀機」を使って脱穀作業を行う乙女小まつやま塾の児童たち

11月5日（金）・10日（水）甲佐町放課後子ども教室「乙女小まつやま塾」で、昔の農具を使った農作業体験が行われました。

同塾は、放課後に地域住民の参加協力を得て勉強や体験学習などに取り組み、地域社会で子どもたちをはぐむことを目的に、町教育委員会が主催。毎週水・金曜日に活動しています。

活動の一つである農業体験では、年間を通して児童たちが、自分たちの手で米や野菜など農作物の栽培や管理、収穫に取り組み、加工や調理も行います。

今回は、昔の農具を実際に使って、自分たちで収穫した稲を脱穀する作業を体験。江戸時代に発明された「千歯（せんば）こき」と、大正時代から昭和30年代あたりまで使用された「足踏み式脱穀機」や「唐箕（とうみ）」を使って脱穀作業を実施。地域のボランティアの皆さんから使い方の指導を受けながら作業に取り組み、昔の人々の農作業の苦労を体験しました。

収穫した米は、同塾の畑で採れたムカゴを使ってムカゴご飯を炊き、児童たちは収穫の喜びを味わいました。